

名古屋港・築地

1907（明治40）年に開港した名古屋港は、工業化の進展とともに中部の海の玄関として発展し、国際貿易港として物流拠点となりました。また、名古屋港水族館などがある国際観光ゾーンを形成し、見所満載です。



①津金文左衛門胤臣頌徳碑
寛政3年（1791年）熱田奉行兼船奉行となり、熱田前新田約350万平米の広大な新田を開拓した津金文左衛門の功績をたたえ、昭和27年12月、港北公園内にこの頌徳碑が建てられた。



②尾張磁器発祥之地碑
津金文左衛門の援助により、新しい製磁法を確立した加藤吉左衛門と民吉父子の功績をたたえ碑が建てられた。



⑥港橋
1号地理立地と2号地理立地との連絡橋として、明治39年に建設されたが老朽化のため昭和11年、現在の永久橋が建設された。



⑦奥田助七郎の胸像
京都帝国大学を卒業した後、明治33年、愛知県に土木技師として着任し築港事業に尽力した奥田助七郎の功績をたたえ建てられた銅像。



⑧南極観測船ふじ
1965年から18年間にわたって南極観測を支えてきた砕氷船「南極観測船ふじ」が博物館として永久保留されている。



⑨名古屋港水族館
北館と南館からなる水族館。北館では「35億年はるかなる旅」をテーマに、シャチ、バンドウイルカ、ペルーガ等の鯨類を飼育展示。世界最大級のプールでは、イルカのパフォーマンスが見られる。南館では「南極への旅」をテーマに日本から南極までの5つの水域にすむ魚類を中心とした生物を展示している。



③平和橋
昭和12年、名古屋港で開催された「名古屋汎太平洋平和博覧会」の開催に併せて架けられた橋。博覧会の「平和」の二文字をとって名付けられたものであり、博覧会の記念として残る唯一のものである。



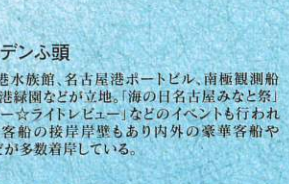
④善光寺
西山浄土宗、名古屋三弘法の一つとして善光寺如来の分身を祀ったのが当寺の始まりである。境内には東海道の道標があり、「右 前ヶ須桑名、左 名古屋築地」と刻まれている。



⑤築地神社
名古屋港の総鎮守。祭神は海の守護神とされる素戔鳴尊。昭和13年、熱田神宮より勧請し、創祀される。



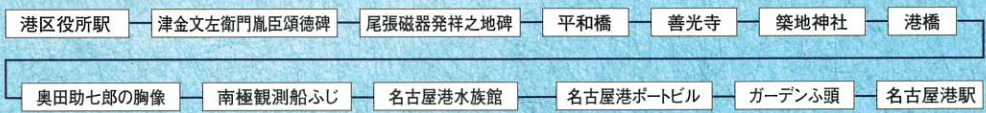
⑩名古屋港ポートビル
高さ63mの白い帆船をイメージした建物は名古屋港のシンボルの一つ。最上階には港を一望できる展望室、3階には名古屋海洋博物館がある。



⑪ガーデンふ頭
名古屋港水族館、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ、臨港緑園などが立地。「海の日名古屋みなと祭」や「スター☆ライトレビュー」などのイベントも行われている。客船の接岸岸壁もあり内外の豪華客船や帆船などが多数着岸している。



モデルコース



交通ガイド

